



【先週のメッセージ】ヨハネ 21:18~23 より

「人に左右されない生き方」

ペテロは主に大いに用いられた人であったが、人に左右されやすいという欠点があった。それでも主はペテロを愛し、あえて「弱い彼」を用いられたのであるから、主は、弱さのある私たちをも用いてくださることを覚えたい。最終的に、私たち一人一人の責任は「あなたはわたしに従いなさい。」という主の語りかけに従うことに尽きるのである。

● 人に左右されやすい二つの領域は、1) 人を恐れること、2) 人と比べること

日本人である私たちは特に、この二つの領域で罠に陥りやすい。江戸、明治～昭和の時代を通し、私たちは神を恐れるよりも、人を恐れるよう「調教」されてきてしまった民族である。人から仲間はずれにされたら生きていけない、と心で信じているのである。また常にまわりの人を見、まわりと比べ、自分の位置関係を確認して安心を得る、というような生き方をしている。しかし、このような生き方は御言葉にあるように、「罠にかかる」生き方なのである。

● 箴言 29:25 「人を恐れると罠にかかる。しかし、主に信頼する者は守られる。」

● 第一ヨハネ 2:15~17 「世をも世にあるものをも愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているならその人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものでなく、この世から出たものだからです。世と世の欲は滅び去ります。しかし、神の御心を行う者はいつまでもながら得ます。」

これらの御言葉をしっかり私たちの心に刻み、人ではなく、主を恐れること、主に信頼することを選び、滅びゆく「世の欲」に捕われない生き方をしていこうではないか！ ■

【わたしは本当に「主」を恐れて生きているか？】

◆ 先週「人に左右されない生き方」をすることの大切さをメッセージしたあと、あることがきっかけで、自分が本当に「人の目を恐れている」ということに気がつかされた。その時に、同時に「あなたは本当に、主を恐れているのか？」という神さまからの語りかけを聞いた。

◆ ちょうど、週の半ばに詩篇 139 篇を学んだが、そこには主が私たちの一挙一動、私たちの思いまで全て見通しておられることが記されていた。もし、そうであるなら、私たちが誰よりも、先ず恐れなければならないのは、まぎれもなく、人ではなく、すべてを見通されている主なる神ではないか！と改めて納得が行ったのである。

◆ 神はすべてご存知であられる。この神さまの前に唯一できることは、日々悔い改め、御子イエスの十字架に信頼し、聖霊の助けをいただきながら主イエスに従って行く決意を更新し続けることなのである。実に「主を恐れる」人には沢山の恵みが約束されているのである。

詩篇 25:12 主を恐れる人は、だれか。主はその人に選ぶべき道を教えられる。

詩篇 25:14 主はご自身を恐れる者と親しくされ、ご自身の契約を彼らにお知らせになる。

詩篇 33:18 見よ。主の目は主を恐れる者に注がれる。その恵みを待ち望む者に。

詩篇 34:7 主の使いは主を恐れる者の回りに陣を張り、彼らを助け出される。

詩篇 34:9 主を恐れよ。その聖徒たちよ。彼を恐れる者には乏しいことはないからだ。

詩篇 103:11 天が地上はるかに高いように、御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。

詩篇 103:13 父がその子をあわれむように、主は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。

◆ 最後になるが、主を恐れることは「選ぶ」である。人は、主を恐れることを日々意識的に「選ばなければ」ならない。主が歴史を支配され、人を地獄に投げ入れる権威を持っていることを覚え、主に対し、純粋な「恐れ」を持つことは正しい。しかし私たちは主イエスを通して現された主の深い愛も知っている。それゆえに私たちはこの方を深く尊敬し、崇め、感謝するのである！

